

1 災害出動状況（消防隊の出動件数）

2023年の災害出動状況については、【表1】のとおりです。

【表1】2023年の災害出動状況

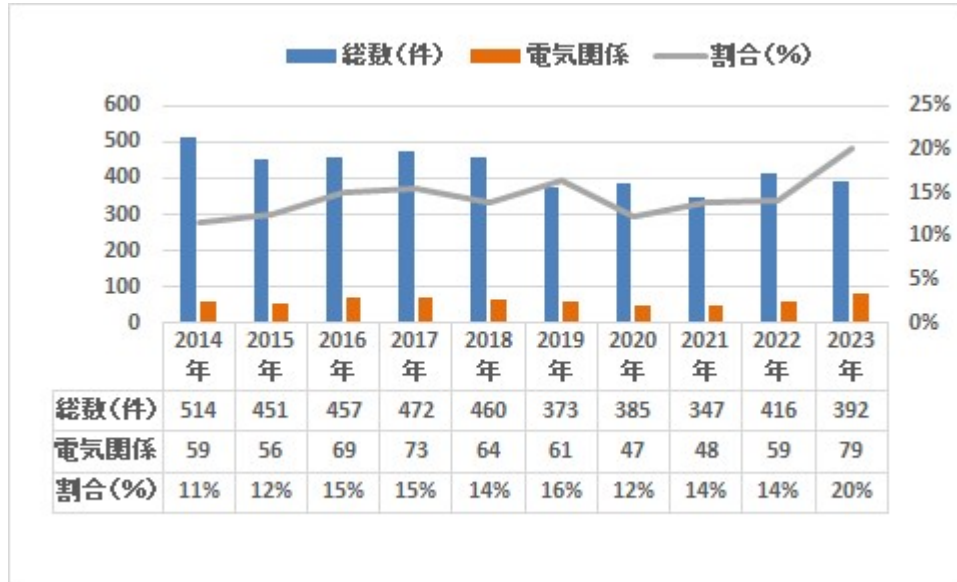
出動項目	内 容	出動件数	昨年比
		11,675 件	486 件(4.3%)増加
火災	火災	392 件	▲24 件(5.8%)減少
水災	雨に起因して発生した災害	12 件	8 件(200%)増加
水火災以外の災害	交通事故、室内の閉じ込め、ガス漏れ、危険物の漏洩事故等、火災・水災以外の災害に出動した事案	2,986 件	142 件(5.0%)増加
特定救急	傷病者が心肺停止状態の場合に救急隊の支援目的に消防隊が出動した事案	1,574 件	▲52 件(3.2%)減少
支援救急	救急隊の活動支援目的に消防隊が出動した事案	2,549 件	175 件(7.4%)増加
誤報	通報者の誤認や自動火災報知設備等の誤作動等、消防機関が出動したが、災害ではなかった事案 または、自動火災報知設備等が有効に作動し火災を未然に防いだ事案	2,772 件	143 件(5.4%)増加
虚報	通報者が非災害に対し、故意に通報し、消防機関が出動した事案	18 件	1 件(5.9%)増加
市外応援	応援協定等に基づき、市外の災害に出動した事案	18 件	▲9 件(33.3%)減少
その他	発生から1週間以上経過後に通報があった火災、上記以外で出動した事案（統計外・延焼受火災含む）	1,354 件	102 件(8.1%)増加

2 火災出動状況

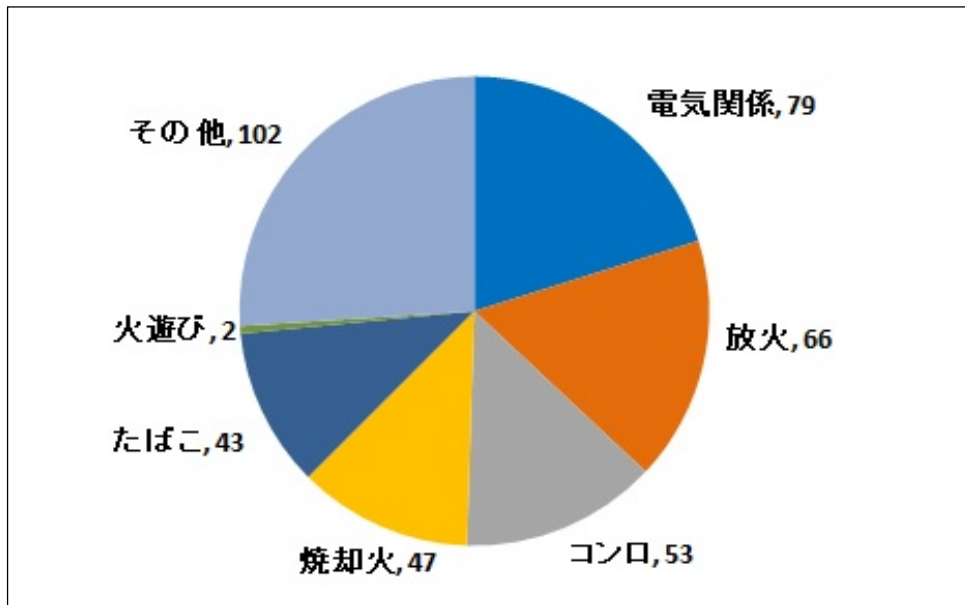
(1) 火災の概要

火災件数は392件で、昨年と比較し24件減少しました。一方で「電気関係」による火災が20件増加しており、火災件数全体の20%を占めています。特にリチウムイオン電池が起因する火災が増えており、純正品を使うことや、変形したバッテリーなどは使わないなどの対策が重要です。

【図1】火災件数



【図2】出火原因別火災件数



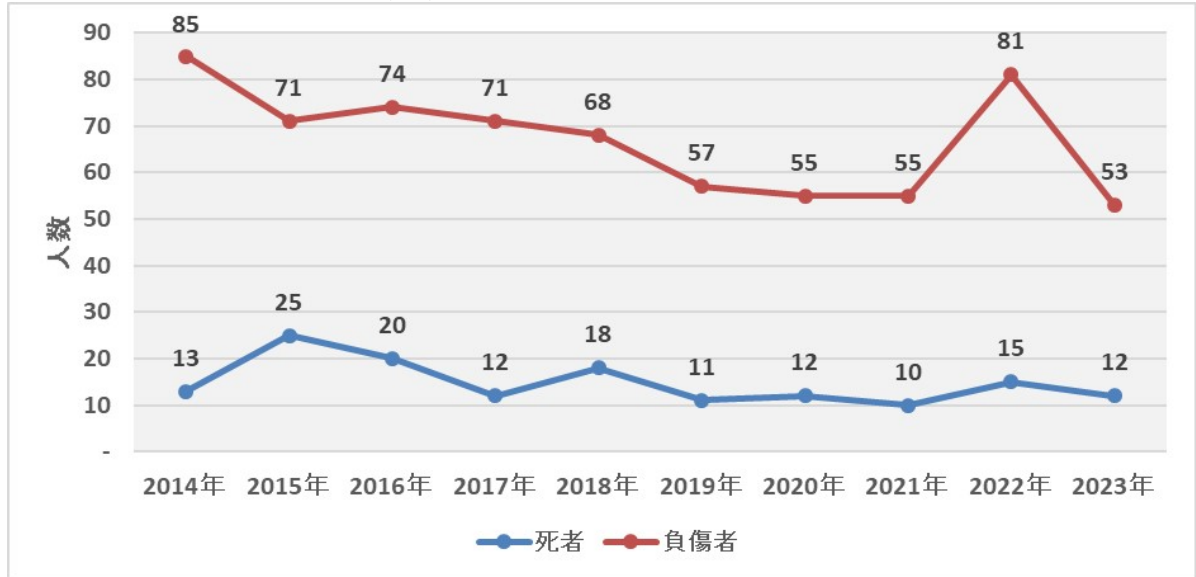
(2) 火災の原因

出火原因の1位は「電気関係」による火災でした。昨年と件数を比べると、「電気関係」が20件、「コンロ」が14件、「焼却火」が8件増加し、「放火」が11件、「たばこ」が5件減少しています。

(3) 死傷者の状況

火災による死者は12人（うち住宅火災によるもの9人）で前年から3人減少し、負傷者は53人で前年から28人減少しました。

【図3】火災による死者・負傷者（人）



(4) 住宅火災の危険性と住宅用火災警報器の設置有無について

住宅火災は141件で、昨年より1件増加しました。

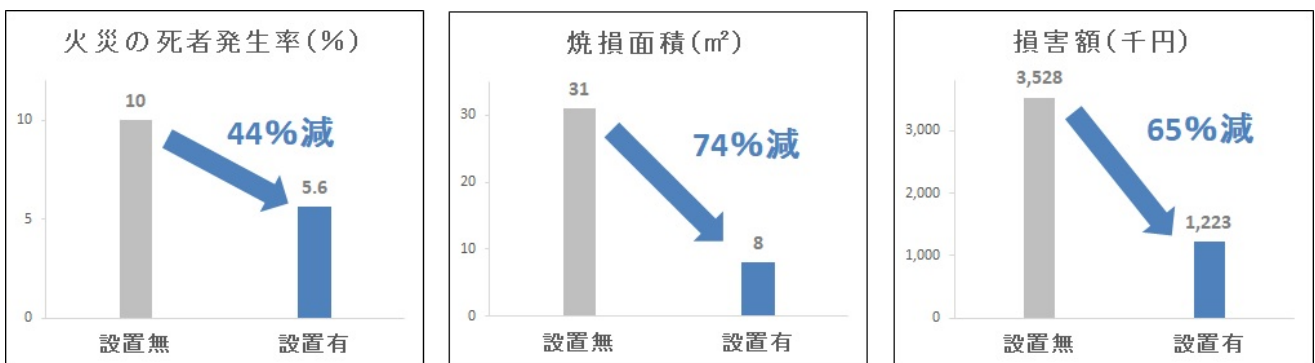
「住宅火災による死者数」は、過去10年間全ての年で「火災による死者の総数」の半数以上を占めています。

【表2】住宅火災による死者数

年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
火災による死者の総数	13	25	20	12	18	11	12	10	15	12
住宅火災による死者数	8	20	15	8	12	9	8	7	12	9
住宅火災の件数	188	184	181	153	157	136	140	114	140	141

注：住宅火災による死者数には、放火自殺者は含まない。

【表3】2019年から2023年までの5年間の神戸市内における住宅用火災警報器の設置有無の損害比較



3 救助出動状況

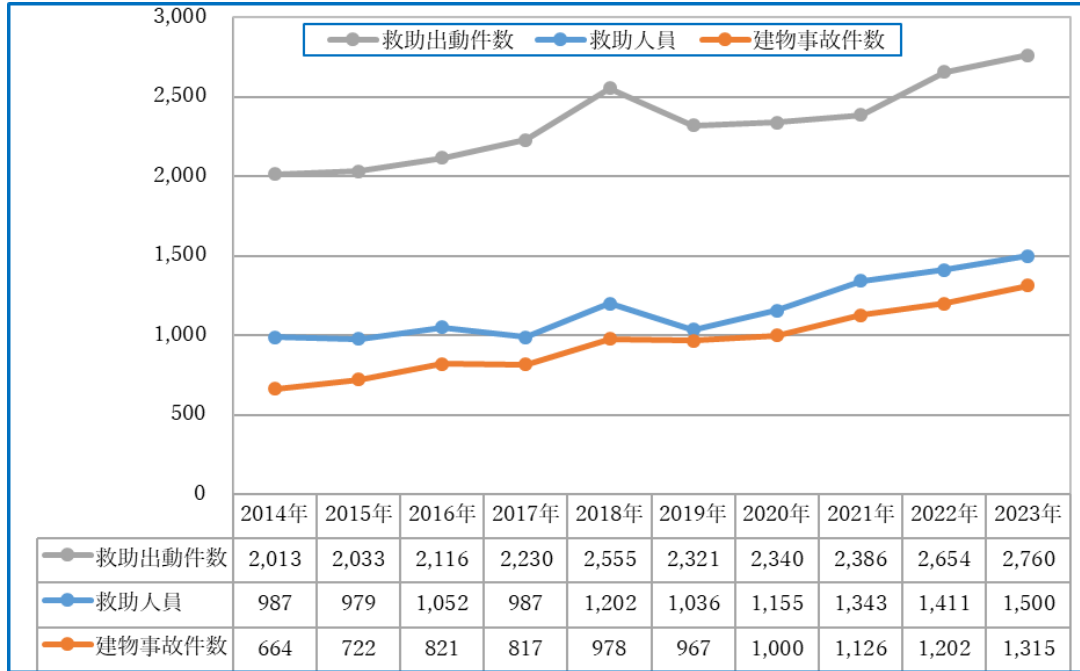
救助隊が出動した件数は2,760件で、昨年より106件（4.0%）増加し、1,500人の方を救助しています。

救助出動件数のうち建物事故（施錠された建物内に急病人が閉じ込められている等）が1,315件と最も多く、昨年より113件（9.4%）増加しています。

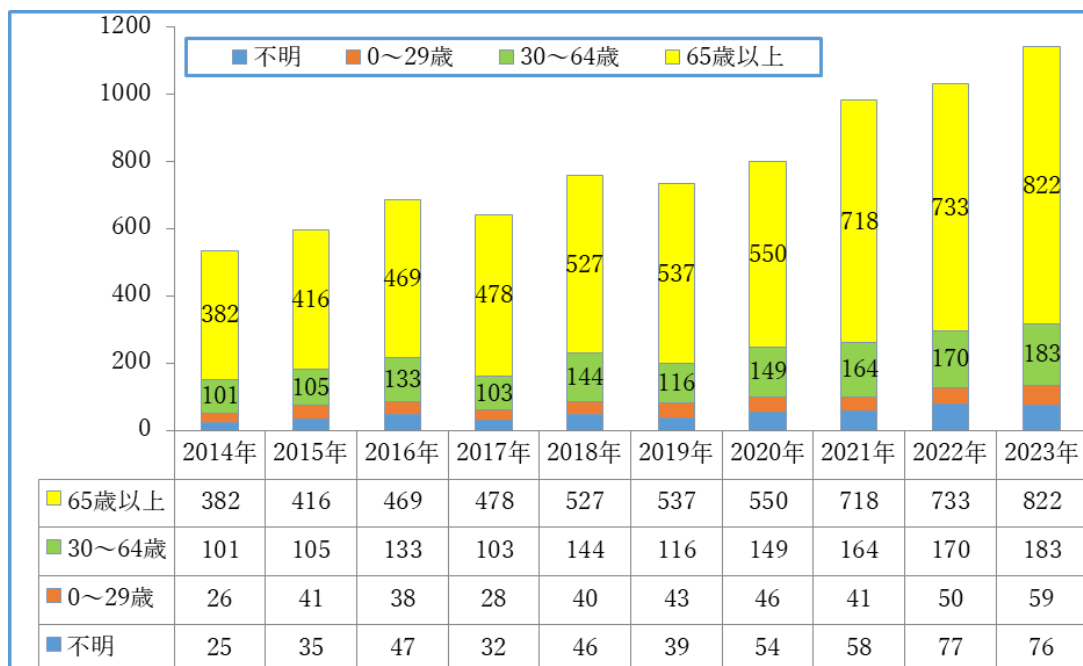
救助人員1,500人のうち、建物事故における救助人員は1,140人で、その内訳を見ると65歳以上の方が822人と最も多く、72.1%を占めています。

建物事故対策として家庭内での事故防止や地域での見守り等が重要となります。

【図4】救助隊出動件数



【図5】建物事故の年齢別救助人員



4 救急出動状況

(1) 全体の概要

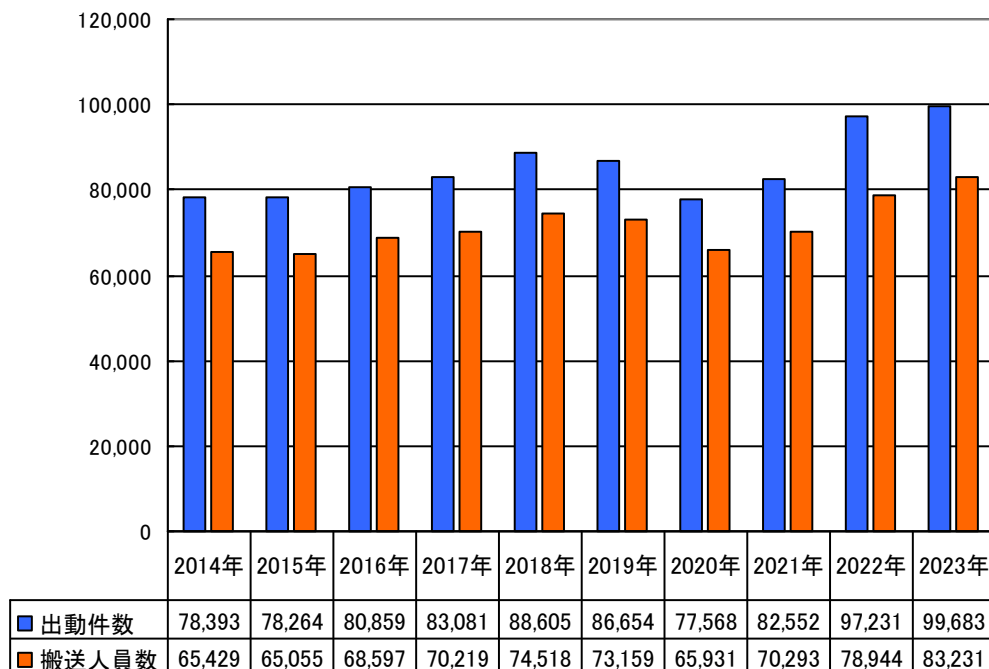
救急出動件数は99,683件、搬送人員数は83,231人と前年よりそれぞれ、2,452件(2.5%)、4,287人(5.4%)増加しました。

神戸市では近年の救急需要の増加について対策を講じているところですが、個人でも熱中症や感染症の予防など対策をすることも重要となります。

急な病気やケガで、救急車を呼ぼうか迷った時は、救急相談ダイヤル「救急安心センターこうべ(#7119)」にご相談ください。

病院などに行きたいけれど、手立て(交通手段)に困っているという方は、最寄りのタクシー・介護タクシーを紹介するコールセンター「おくる電(050-3733-7555)」をご活用ください

【図6】救急出動件数と搬送人員数

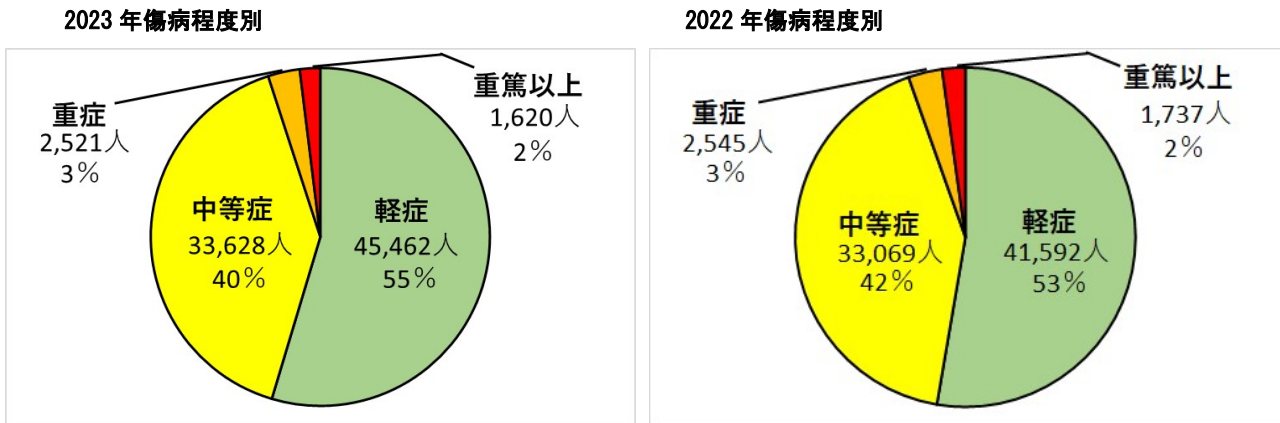


(2) 傷病程度ごとの搬送状況

傷病程度ごとの搬送人員数は、入院を要しない「軽症」が最も多く45,462人で、全体の54.6%を占めています。続いて3週間未満の入院が必要な「中等症」が33,628人(40.4%)、次に、3週間以上の入院が必要な「重症以上」が4,141人(4.9%)となっています。

前年(令和4年)と比較すると、「軽症」は3,870人増(9.3%増)、中等症は559人増(1.7%増)、「重症以上」が141人減(7.6%減)となっています。

【図7】傷病程度ごとの搬送状況（人）



(3) 事故種別の搬送状況

事故種別ごとの搬送人員数は、「急病」が最も多く、65,778人で全体の66.0%を占めています。続いて「一般負傷」17,105人（17.2%）、「転院搬送」6,665人（6.7%）と続きます。

昨年と比較すると、急病（2.2%増）、一般負傷（4.0%増）、転院搬送（8.4%増）などのように増加したのものもある一方で、交通事故（1.4%減）のように減ったものもありました。

【表4】事故種別ごとの出動状況（件）

種別	2023年		2022年		増減	
	件数①	シェア	件数②	シェア	①-②	増減率
急病	65,778	66.0%	64,349	66.2%	1,429	2.2%
一般負傷	17,105	17.2%	16,452	16.9%	653	4.0%
転院搬送	6,665	6.7%	6,149	6.3%	516	8.4%
交通事故	4,401	4.4%	4,465	4.6%	▲ 64	-1.4%
自損行為	844	0.8%	785	0.8%	59	7.5%
労働災害	542	0.5%	545	0.6%	▲ 3	-0.6%
運動競技	429	0.4%	391	0.4%	38	9.7%
加害	364	0.4%	376	0.4%	▲ 12	-3.2%
火災	240	0.2%	222	0.2%	18	8.1%
水難	25	0.0%	27	0.0%	▲ 2	-7.4%
医師搬送	9	0.0%	11	0.0%	▲ 2	-18.2%
資器材等	1	0.0%	1	0.0%	0	0.0%
自然災害	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	3,280	3.3%	3,458	3.6%	▲ 178	-5.1%
合計	99,683	100.0%	97,231	100.0%	2,452	2.5%

(4) 年齢別の搬送状況

年齢別の搬送人員数は、「65歳以上」が52,580人と、全体の63.2%となっており、依然高い状況です。

昨年と比較すると、ほとんどの年齢層で増加しており、特に「新生児」206人（20.5%増）、「1～6歳」3791人（25.3%増）「65歳以上」52,580人（11.8%増）と大きく増加しています。

【表5】年齢別の搬送状況（人）

年齢	2023年		2022年		増減	
	件数①	シェア	件数②	シェア	①－②	増減率
新生児	206	0.2%	171	0.2%	35	20.5%
乳児	421	0.5%	452	0.6%	▲ 31	-6.9%
1～6歳	3,791	4.6%	3,025	3.8%	766	25.3%
7～17歳	2,535	3.0%	2,386	3.0%	149	6.2%
18～29歳	5,167	6.2%	4,953	6.3%	214	4.3%
30～39歳	3,647	4.4%	3,456	4.4%	191	5.5%
40～49歳	4,458	5.4%	4,418	5.6%	40	0.9%
50～64歳	10,426	12.5%	9,959	12.6%	467	4.7%
65歳以上	52,580	63.2%	50,123	63.5%	2,457	4.9%
合計	83,231	100.0%	78,943	100.0%	4,288	5.4%